

経験蓄積、技能も向上

先日、あるセミナーで心臓外科について次のようなショッキングな話を聞いた。海外で成功した日本の心臓外科医の話である。この方は年間手術数六千例以上という大規模な心臓病センターを海外で立ち上げ、二十年近く続けてこられた。日本から心臓移植で来た患者も十人を超えているという。

ところがその後日本に戻ってきて、日本の実態との差に愕然としたという。日本では全国に五百以上の心臓外科施設が乱立し、一施設あたりの年間手術数が八十例にも及ばないという。こんなに少ない手術数では、専門の医師の技能をあげるのには非常に難しいのではないかと感じている。

少し前に、東京都内で脳内出血のある妊婦が七つの病院から受け入れを拒否されて死亡したケースがあった。どの病院も当直の医師の手が足りず、対応できなかったという。

医師不足がクローズアップされたケースだ。ただ、なぜ七つも病院があるのかという疑問がわいている。もし脳内出血の妊婦に対応できるような救急施設が一つか二つに集中していれば、より多くの医師を一カ所の施設に張り付けられるので、夜間の対応なども可能ではなかったかとも思われる。

病院の規模適正化が不可欠

多い。より施設を集中して規模を大きくすれば、一つの施設に多くの医師が張り付けられるので、無理なシフトをしなくても夜間でも十分な医師を確保しやすくなる。また、一つの施設での症例が増えるので、現場の医師やスタッフにとってもより多くの経験が蓄積でき、技能を高めることができるようになるという。

こんなことは他の産業では当たり前だ。たとえば銀行を見てほしい。昔は規模の小さな銀行が乱立していた。しかし、より高い専門性を求め

医療などは規模の経済性が非常に重要なはずだ。冒頭にあげた心臓外科の事例などはその象徴だ。にもかかわらず、日本全国に中途半端な規模の医療施設が乱立した状態が一向に是正されないのは、医療の世界では市場メカニズムが働かないからだろう。国民皆保険の制度に乗って公的補助の下で維持される医療システムだから、市場メカニズムが十分に効かないのは仕方ないことかもしれない。

最近、私が理事長をしている総合研究開発機構(NIRA)で医療の専門家にインタビューをするプロジェクトを立ち上げている(詳しくは次のウェブサイトを参照してほしい。http://www.nira.or.jp/president/interview/index.html)。専門家の方々のお話を聞いていると、私が抱いた疑問はまんざらの外れではないようだ。高度医療や救急施設の数が多すぎて、一つひとつの規模が小さいので有効に機能してこないという指摘される方が

られ国際競争にさらされた結果、今や日本のメガバンクは三つになってしまった。あれだけの規模だからこそ高度な金融ビジネスができるわけだ。そして利用者にとってもメガバンクは三つで十分だ。市場メカニズムにのまれている産業であれば、規模の経済性を生かせない企業は生き残れないので、自発的に合併や吸収が続ぎ大型化が進むのだ。

専門分野でのすみ分けも

医療の世界でも、高度医療や救急

(総合研究開発機構
理事長・東大教授)